

Green Map Harmony

vol.3

特定非営利活動法人
グリーンマップジャパン
Annual Report
from April 2007 to March 2008

GREEN
MAP
JAPAN

第2回 アジアハブ会議 台北で開催 --5ヶ国から集結



一般公開会議を開催した
SOWのメンバーと

6月16-18日、第2回グリーンマップ・アジアハブ会議が開催されました。2005年の愛知万博開催の折、開催されたアジアハブ会議は、アジア各国のマップメーカーに様々な情報とインスピレーションを与え、その後の自国での活動にいろいろな面で実りを見せています。今回は、前回愛知に集まった創設ディレクター・ウェンディー、インドネシア、台湾、はじめ、新しくタイ、香港のマップメーカーが加わり、充実した会議となりました。日本からは、グリーンマップあいちディレクター、中川恵子とグリーンマップジャパン理事長、右衛門佐(よもさ)美佐子が参加しました。

6月16日の一般公開会議では、台北行政区長やデルタ電子NPO部門の挨拶の後、各国のグリーンマップの制作状況をそれぞれプレゼンテーションし、世界に広がるグリーンマップ運動を強く一般市民にアピールしました。

6月17日は、台北市内の酒蔵を改造した文化施設にて、今回の会議のホスト団体、台湾最大の環境NPOである

「荒野保護協会(SOW)」のメンバーとクローズドな会議を持ちました。今後のアジアの結びつき、ノウハウの交換、協働プロジェクトの可能性、新システムGreenhouseの説明、中国のマップ制作状況などを情報交換し、引き続き各国ハブ間で情報共有し、本やツールなどお互いの成果物を利用し合うことを話し合いました。

6/18は、台湾先住民族のひとつハッカ族の古い町並みを訪問後、台北市内から2時間ほどの、SOWが指導してピクトープを作った小学校、芸術教育にグリーンマップを取り入れている高校、ハイテク都市・環境都市で有名な新竹市を訪問視察。台湾国内で実行力のあることで最も人気のある新竹市長の林政則氏の熱烈な歓迎を受け、海岸部の大規模エコパークを自ら案内していただきました。台湾のコンビニでは、特に袋を要求しない限り、プラスチックバックには入れないなど、日本より進んでいる面も多く、環境問題に大変積極的な台湾市民の活動に感心すると共に、各所で興味深い事例を見ることができました。



旧日本軍が建てた酒蔵を改装した文化施設での
討議の様相



新竹市長自らエコパークを案内

SOWが指導した桃園県雙龍
国民小学校のピクトープ見学



contents

Green Map Harmony vol.3 1 第2回アジアハブ会議台北で開催--5ヶ国から集結

グリーンマップインパクトを発行 2-3 マップメーカー登場! ひろしまエコピース

グリーンマップアイコン・ヴァージョン3 ついに完成 4-5 グリーンマップアイコン・ヴァージョン3 ついに完成

世界のマップから ウエンディ・ブラウワー 6-7 2007年度完成したマップ

事務局便り 8

グリーンマップは地域を変える!!

「グリーンマップ・インパクト」を発行



目を向けることで「環境まちづくり」への関心を高めることができる、プロセス重視の活動だからです。これまで、多くのグループにグリーンマップを紹介し、講座やワークショップでその手法を伝えてきました。が、実際にグリーンマップづくりは、地域や人々にどんな影響や変化を与えているのだろうか。そこを知りたいと、今回は、「インパクトは何か」という視点から情報収集して、冊子にまとめてみることにしました。

●制作の背景

中部リサイクル運動市民の会（事務局：名古屋市）は、1980年よりリサイクルと環境問題に取り組む環境NPOですが、「グリーンマップあいち」の活動をサポート支援すると同時に、地球環境基金の助成対象事業として「エコ・コミュニティづくりのための愛知県全域グリーンマッププロジェクト」をこの3年間行ってきました。

「愛・地球博」をきっかけに愛知県で広がったこのグリーンマップ活動の芽を、一過性の万博イベントに終わらせるのではなく、「持続可能な地域（エコ・コミュニティ）づくり」につなげるために、継続的に市民ツールとしてのグリーンマップの活用を呼びかけ、この地域のムーブメントにしていこうというのが、このプロジェクトのねらいでした。初年度（2005）は、県内のネットワークづくりや地域活動のサポート、活動ツール開発などの事業をベースに、愛知の事例20件をまとめた「あいちのグリーンマップ」を作成。2年目（2006）では、グリーンマップジャパンの協力のもと、全国のグリーンマップ活用の先進事例として、マップメーカーを講師に招き、「環境学習」「商店街の活性化」「自然保護」など5つの活動テーマ別に「グリーンマップはこんなふうに使え！」というノウハウヒントを学ぶワークショップを開催し、「活動テーマ別グリーンマップガイド」を作成しました。そして3年目（2007）に作成したのが、この「グリーンマップ・インパクト」です。

●企画意図—グリーンマップは、周辺地域や人々にどんな影響変化を与えているのか

私たちは、グリーンマップが「まちづくりの道具」として、とても有効であることを、活動のなかで実感してきました。グリーンマップが、地図づくりを通して地域に

この冊子では、エコ活動・子どもたち・コミュニティ・まちづくり・行政との協働・自然保護・伝統文化・企業（CSR）の8つのインパクトカテゴリーに分け、日本（愛知含む）14事例と海外14事例（スポット紹介も含む）の28事例を紹介しています。完成した地図をみるだけでは伝わらない、グリーンマップの多様な可能性を感じていただけるのではないのでしょうか。みなさんの活動の場面で、この冊子を情報ツールとしてお役立ていただければ幸いです。

今回の制作に当たっては、愛知の事例は「グリーンマップあいち」、国内事例は、「グリーンマップジャパン」、海外事例は「グリーンマップシステム」との連携で行うことができました。このような協力体制で行えるのも、グリーンマップならではのネットワークの強みです。ありがとうございました。

なお、この冊子は近く英語に翻訳され海外の方にも読んでいただけるよう、ダウンロード可能になる予定です。

★グリーンマップあいちディレクター

中川恵子（NPO法人中部リサイクル運動市民の会）

「グリーンマップ・インパクト」のお問い合わせは、
グリーンマップジャパン事務局 <info@greenmap.jp> まで

編集会議の様、名古屋にて



通年取組で子供達と広島を考えるツールに

「ひろしまエコピースマップ」の皆さん



千代さん



木原さん



八木さん



「ひろしまエコピースマップ」の活動は、広島大学建築学科の千代章一郎准教授を中心に2003年から様々なテーマで広島大学附属小学校の子供達とマップづくりを進めている。今年で6年目を迎える。

●様々な工夫

ひろしまエコピースマップの活動には、様々な工夫がある。第一版は、歴史編と現代編からなり、両者とも路面電車からの風景を表現した。歴史編は、関係者の聞き取り調査を元にした戦前の広島。現代編は、子供達が調査した今の広島で、トレーシングペーパーに印刷され、歴史編と重ねたり、2004年、2005年版と重ねて見たりすることで、街の変化が読み取れるよう工夫されている。

インドネシアのグリーンマップチームは、このマップに触発され、津波被害を受けたアチェの街の災害復興マップを考えた。



1年間の通年プログラムは年によって多少異なるが、プレワークショップ→フィールドワーク（調査）→ワークショップ（制作・まとめ・発表）→展示→オープンカフェ（市民参加討論や編集）のクールを設けている。子供達が使うアイコンドリルやカード、描き込み地図といったツール類にも、楽しく興味をかき立てる独自の工夫が散りばめられている。

●「ヒロシマ」が内包するテーマ

「広島は平和教育が盛んですが、被爆、反戦、国際理解以外の部分では、かえって思考停止に陥っている所も感じるのです。最初は、キャッチーな言葉としてエコピースという言葉を考えてのですが、後から考えると深いなあと思えてきて、どんどん分からなくなってきた、考えていたら6年経ってしまいました。」（笑）と千代さん。広島の場合、原爆投下によってあからさまに歴史との断絶がある。だから例えばグリーンマップアイコンの「史跡・

文化財」や「伝統的な生活区域」と言っただけ古いものが街の中にはない。「新しいもの」はそれだけで復興のシンボルとなってきたので、子供達も、たとえ景観を壊すマンションでも新しいものは「良い」、民家などの「古いもの」は汚くて「悪い」マークを付けてしまう。歴史を大切にしなければならないことは頭では分かっているけれど、大人にも身体的に何か「新しいもの」は「復興」して「良い」という感覚があるという。「古いは新しい」「広島を繋ぐ」などのテーマは、こうした歴史の断絶性を考え、広島にも歴史があり、それが「新しい」現代にも連続性を持って繋がっているのだということを考えようとした試みだ。エコピースマップは、いわば広島を捉え直すもうひとつの視点の構築に挑戦しているのだ。



●子どもに教えられる

マップ制作活動は、広島の都市工学、教育学の先生、学生、フジゼロックス、タスコGIS、広電などの企業、父兄など多く人が積極的に関わることで支えられている。附属小学校の同じクラスの子供達40名と毎年3年間に亘ってマップ作りをしているので、最初の子供達はもう中学2年生になった。この子供達に多くのことを気付かせてもらったとメンバーも語る。建築学科だった木原一郎さんは広大在学中から関わっているが、都市の見方が変わったという。「それまでは都市とはこうあるべきみたいな思いが強かったが、多角的な見方ができる様になった」と言う。担当4年目に入る八木恵美里さんは「はじめは子どもとどう接していいかわからずとまどったが、自分が将来、親になった時に子どもにとってどういう街や生活がいいのかを考えるようになった」と言う。しかし、皆さん口を揃えて、「驚くのは、何と言っても子どもの成長の早さと可能性」と語ってくれた。





グリーンマップアイコン・ヴァージョン3

Green Map Icon ver.3 ついに完成!

持続可能な社会を目指すグリーンマップの運動の心臓部は、グリーンマップシステム・アイコンです。アイコン改編プロジェクトは、グリーンマップ本部とグリーンマップジャパン(千代副理事長)を中心に、3年にわたって進められてきましたが、このほどVersion.3が完成しました。

ver.2が制作されたのは1999年。この間、環境やコミュニティも大きく変化し、世界中のマップ作りの実体験から多くの意見も寄せられました。Vers.3に課せられた課題は、グリーンマップの運動が、今後の持続可能なコミュニティを形成していく上で、どのような手法、方針、思想があるのかを改めてアイコンを通して表明し、かつアイコンデザインそのものの完成度を高め、使いやすさなどの調和を考えることでした。

GREEN MAP 改訂版アイコン Vers.3 の特長

1. 変化に対応したジャンル分け

変化に対応したジャンル分けでグリーンマップ目指す方向がどのようなものであるかより理解しやすくなっています。中でも社会の公平性や人々の活動を促す「公平性と活動」が新しく加わりました。

- 持続可能な生活
 - ・エコ経済
 - ・グリーンテクノロジーとデザイン
 - ・交通と移動
 - ・汚染と破壊

- 自然
 - ・植物
 - ・動物
 - ・大地と水
 - ・アウトドア活動

- ▲ 文化と社会
 - ・文化的特徴
 - ・情報
 - ・公平性と活動
 - ・ランドマーク

● 改編・新規アイコンの例



* Standard Icon Set



S
n 3



GreenMap.org

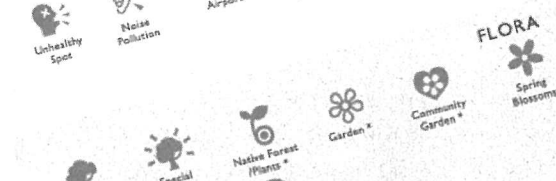
TECHNOLOGY & DESIGN



HAZARDS & CHALLENGES



FLORA



OUTDOOR ACTIVITIES



ECO - INFORMATION



PUBLIC WORKS & LANDMARKS



Green Map Icons copyright Green Map System, Inc. 2008. All rights reserved.
Green Map is a registered trademark and service mark of Green Map System, Inc.

2

2. システマティックなアイコンデザイン

アイコンの数は、全部で169個に増えました。エレメント化されたパターンランゲージで理解しやすく、組み合わせ使用できるように工夫しました。例えば、「買い物袋」のアイコンは基本的に「お店」を意味し、売るものの中に入れてることによって、どのようなお店なのかを示しています。

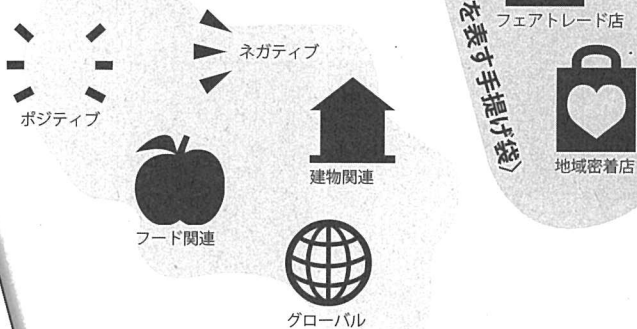
● システマティックな例

〈エコロジカルを表す葉っぱ〉



● エレメント例

これはほんの一例です!!



3

3. 目的によって使い分け

グリーンマップに使用されるアイコンの半分以上はグリーンマップアイコンでなくてはなりません、それ以外のものは地域で独自にデザインしたアイコンを使用することができます! 一般的なランドマークアイコンも加わり使いやすくなりました。また、57個のアイコンが『スタンダード』なもので、子供たちやコミュニティでのマップ作成に便利です。

● ランドマークの例



※まず、アイコン Vers.3 を見てみましょう。

アイコン Vers.3 のダウンロード、著作権表記等は: GreenMap.org/icons

※日本語版は8月に完成予定です。

グリーンマップ・システムにとって2007年はまれにみる実り多い年でした。プロジェクト・ネットワークは400の大台に乗り、50カ国に達しました。また、GreenMap.orgのサイトが一般の方にもグリーンマップ・メーカーにも役に立つ、多言語、多重音声、情報発信・協働型のネットワークセンターとして生まれ変わりました。

昨年も多くの新しいグリーンマップが発表されました。数があまりにも多く、正確な数がかかめていないくらいです。印刷版とデジタル版、情報が更新されたPDF版のマップも合わせると全部で100近くありそうです。更新されたマップの中には、たとえば、LEED認定（Leadership in Energy and Environmental Design）のグリーン・ビルディング35棟を新たに追加した「ニューヨーク市の「パワフル・グリーンマップ」などもカウントしてあります。

以下、2007年度に完成したマップの好例を3つ紹介しましょう。



●ヨーロッパから

「グリーンマップ・ル・グラン・サコネックス」はスイス・ジュネーブ郊外地域を収録しています。詳細な航空写真を使っているため、樹木の一本一本がはっきり区別できるほどです。このマップは狭い地域のもので、もっともグリーンな場所を丸で囲んで拡大して見せ、重要な建物や庭園を明るい写真で示しています。マップの創作者、ニコラ・フェレとサンドラ・ブラッツィーニ・ムリエの二人は、地元の学校や政府、財団と良好な関係を作り、スイスのフランス語圏のオンライン版の作成に着手しました。

URL: GreenMap.ch

●アジアから

「中華マングローブ保全ネットワーク」発行のグリーンマップはマングローブ保護を目指したビジュアルな案内マップです。中国語が読めなくても、地図に載っている写真を細かく見ることで、健全なマングローブには多くの生物が棲息していることがみてとれます。また、この地図は人間の命もマングローブに守られていることを教えています。押し寄せる津波の勢いを弱めたり、浸食や大洪水を予防したりしているからです。南シナ海沿岸を子どもの絵のように描いて、貴重な湿地帯にいる生物のすばらしさと保護をアピールした地図となりました。



●アメリカから



サンフランシスコの「北カリフォルニア・グリーン・マップ」は、これまでのマップの中で飛び抜けてサイケデリックな作品です。持続可能な有機農業、広々とした空間、それに土地利用問題に焦点をあてています。これらの問題に長年取り組んできたジャーナリストのディビッド・カッファー制作によるこのマップには、ヒッピー華やかなりし頃のサンフランシスコで名を馳せたガンピーとミスター・ナチュラルのマンガや言葉、その他の逸品が掲載されています。 URL: SFGreenMap.org

グリーンマップのビデオがご覧になれます

ビデオチャンネル「ユーチューブ」の <http://jp.youtube.com/Greenmapsystem> では、世界のグリーンマップ活動が動画でご覧になれます。「グリーンマップって何?」と思った人にこの活動を紹介するビデオ、世界各地のマップメーカー、青少年や子どものグリーンマップづくりの様相や関連する多彩な活動など、30ほどのビデオはライブ感もあるので楽しく、お友達に紹介するのに最適です! 今後も世界中のグリーンマップの例を地域モザイクの中に次々と追加していく予定です。2008年には、あなたのグループの作品も載るかもしれませんよ。又、同サイトではクレジットカードで簡単に送金できる寄付も受け付けていますので、よろしくね!

new map 舞岡柏尾地域福祉シルバーマップ



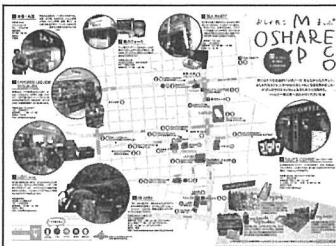
ケアプラザのケアサポート構成員、地域の皆さん、舞岡中学校の福祉委員会の方々と福祉、高齢者の視点で街を歩き、医院、薬局、福祉施設、各種高齢者向サービス、ボランティアセンター、車椅子の通りにくい坂、エレベータ設置場所、車椅子トイレのあるところ、またお年寄りがわいわい立ち寄れるベンチのある場所、銭湯、理髪店なども収録したユニークな福祉マップになりました。

2007年7月1日発行

企画・制作：横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ + グリーンマップよこはま

問い合わせ：中村利恵 rie-n@yk.rim.or.jp

new map OSHARECO 栄2R マップ



昨年制作された大須エコマップが次の活動アイデアに発展。名古屋の一大イベント「環境デー名古屋」に参加した学生が中心となって制作。「オシャレにエコを」という若者達の感性が生かされた大須の Reduce、Reuse のサイトマップです。

2007年9月発行

発行：環境デーなごや実行委員会

企画・制作：OSHARECO 栄2R マップ作成会 + 中部リサイクル運動市民の会

問い合わせ：OSHARECO 栄2R マップ作成会 info@oshareco.jp

new map 海辺の夜行性の生き物たち



わたしたちは環境省の「身近な野生生物観察」団体として2007年8月から11月の間に南知多長谷崎の海辺の夜行性の生き物の調査をしましたが、この驚きに満ちた生き物の世界の存在を知ってもらいたいと思い、調査結果をグリーンマップのかたちにまとめました。

2008年2月23日発行

企画・制作：「あいちの海」グリーンマップ

問い合わせ：大矢美紀 a-ohya@sc.starcat.ne.jp

new map Green Map Uji



京都府宇治市を再発見したいと思って発足したのが「GreenMapUji」です。現在、社会人3名、京都文教大学の学生6名の計9名で活動。テーマは「エコ・コミュニティ」です。地元の方々とコミュニケーションを図ることで見えてくる宇治の環境がこの「GreenMapUji」の基盤となっています。さらにこのマップにより活動や交流のきっかけになればと思います。

2008年3月31日発行

企画・制作：京都文教大学フィールドリサーチオフィス

問い合わせ：マーキーズ・ディノ roma_ego_worldillia@hotmail.com

new map いっしきグリーンマップ



三河湾に接する、日本有数の一色干潟など、豊かな自然や漁業文化の残る一色町。2008年度の町民参加による環境基本計画づくりを前に、未来の一色町を考えるきっかけづくりとしてグリーンマップのワークショップを実施。「自然・生き物」「暮らし」「水」をテーマに、小中学生を含む町民が中心になってグリーンマップを作成しました。子どもたちの素朴な視線が印象的なマップです。

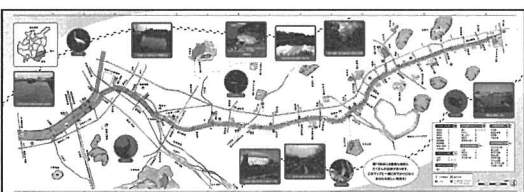
2008年3月発行

発行：愛知県一色町 協力：グリーンマップあいち

問い合わせ：一色町役場 kankyou@town.isshiki.lg.jp

new map 扇川グリーンマップ

名古屋市緑区の中央を流れる扇川。区民に親しまれている川です。「グリーンマップみどり」のメンバーが、この扇川流域を何度も歩いて調査し、名古屋市緑生涯学習センターの協力を得てグリーンマップを作成しました。使ってもらえるマップにしたいと、



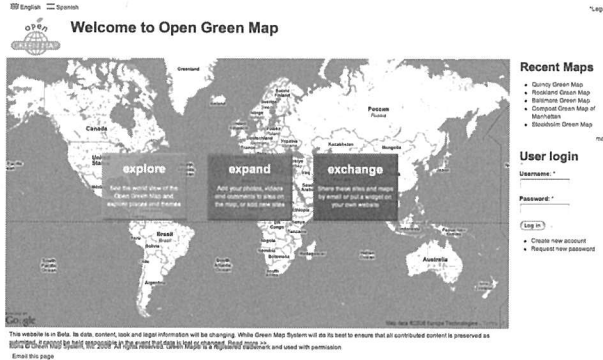
流域の自然だけでなく、史跡や文化財、交通渋滞場所などを掲載。とくに「雨水貯留施設を備えた公園」を表す独自のアイコンが特徴的です。

2008年3月発行

企画・制作：グリーンマップみどり

問い合わせ：名古屋市緑区まちづくり推進室 midoriku@mc.ccnw.ne.jp

●ゲーグルマップを活用した「オープン・グリーンマップ」始動!



オープン・グリーンマップは世界各地のグリーンマップの普及版ともいえるでしょう。テストサイトで実験用が始まっています。
GreenMap.org/ogm

グリーンマップ・ニューヨーク本部では、世界中の人々が単に情報を入手するだけではなく、自分との関わりをより強く持つことを手助けしようと、新たに、オンラインのオープン・グリーンマップのシステムを作成中です。この双方向のマップはグリーンマップアイコン Vers.3、オープンソースのゲーグルマップの技術を使って、持続可能な場所や道、その他のグリーンサイトの情報を収集し、かつ見せることができます。マップづくりに参加できるのは、登録したグリーンマップ制作者だけですが、2008年の半ばから、マップ上の入力されたグリーンサイトに、コメント、画像、翻訳、自分が受けた影響などを書き込めるようになります。テスト運用を開始しています。このシステムで制作された「オープン・グリーンマップ」が表示されると共に、今までにその地域で発行されたグリーンマップを見ることが出来ます。さらに、携帯電話からのアクセス、CyclingMap.jpなどの双方向グリーンマップにも繋がるようにする予定です。日本語のインターフェイスも予定しています。是非ご覧になり、あなたのご意見をお寄せ下さい。

●新しい本部サイト (Greenhouse) への再登録はお済みですか?

本部ウェブサイトの全面改訂に伴い、2007年8月から登録のシステムが変わりました。マップメーカー自身が直接入力して頂く全世界共通のシステムです。既に登録済みでマップを完成させた現在休眠中のマップメーカー、進行中のマップメーカーも Greenhouse に登録し直してください。再登録して頂きますと、アイコン使用の権利や Greenhouse へのログインの権利を失います。
※詳細は、<http://www.greenmap.jp/> から、「グリーンマップに参加するには」にアクセスしてください。

●Newcomers, Welcome!

2007年度(2007.4~2008.3)参加登録した所です。*完成

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 地域・グループなど..... ● さいたま市立大谷場中学校 ● 小諸市布引施設園芸組合 ● 神戸夙川学院大学 ● 横浜市金沢区 ● 山口県光市島田小学校 ● 京都府宇治市文教大学* | <ul style="list-style-type: none"> ● テーマなど..... ● 環境良好な部分と問題部分 ● 子供達の自然教育・イベント等 ● エコツーリズムの推進 ● 環境に配慮したまちづくり ● 校区内の自然と安全 ● 身の回りの環境問題や、残すべき自然 |
|--|--|

●事務局からのお願い

1.年会費納入の通知は本部より自動的に送られてきます。日本で支払われた会費の3分の1は、グリーンマップジャパンにサポート金として供与されます。会費は直接本部に支払うことができますが、以下の口座に円で支払うこともできます。

振込先：郵便振替口座
00920-4-278590

加入者名：特定非営利活動法人 グリーンマップジャパン

2.マップが完成しましたら、30部を事務局にお送り下さい。また、ホームページに掲載しますので、説明文と画像をご用意下さい。本部のウェブサイトにも説明や画像を入力して下さい。プロジェクトの進捗状況なども世界に向けて発信して下さい。

3.グリーンマップジャパンから直接、日本語の資料を取り寄せたり、購入することもできます。現在、以下のような資料がご利用になれます。

- 「グリーンマップ・アクティビティガイド」
 - グリーンマップ紹介パンフレット
 - グリーンマップ調査シート(小中学生用)
 - 「テーマ別グリーンマップガイド」
 - 「グリーンマップ・インパクト」
- 詳細情報・お申し込みは、グリーンマップジャパンのホームページをご覧の上、グリーンマップジャパン事務局までメールでお申し込み下さい。

●編集後記：先日の新聞の記事でも、日本人は環境的知識は世界的に見てもトップクラスだが、行動は先進国中最低だと書かれていました。NPOを支援する体制も決して整っているとは言えません。グリーンマップは、作るだけでなく Activity Oriented を推奨しています。行動に結びつける仕掛けの工夫を心がけたいですね。(よ)

- Green Map Harmony
- 発行日：第3号 2008年6月20日
- 企画・発行：特定非営利活動法人 グリーンマップジャパン
- 編集人：右衛門佐美佐子
- デザイン：田中裕子